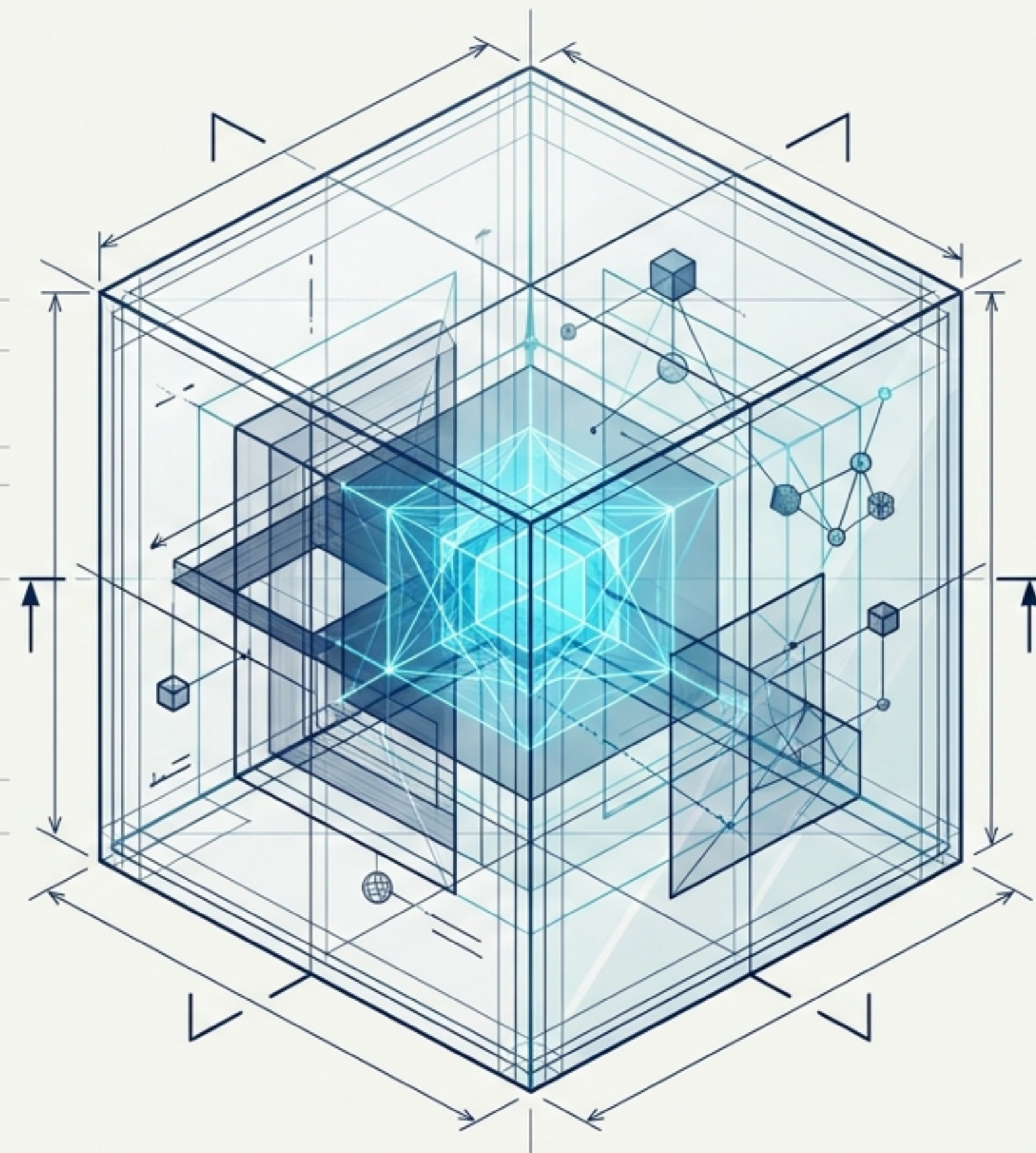


欧米発「Agentic IP」の 実態と日本市場の最前線

14プラットフォームの一次情報検証と、
次世代知財戦略の意思決定マトリクス



【欧米の現実】 エージェントAIの虚実



真の自律型エージェントは14社
中わずか3社のみ。

マーケティングの誇大宣伝
(Hype) と一次情報に基づく
実態の乖離を解明。

【日本の構図】 階層化と業界再編



「グローバルデータ基盤」と「
特化型国内ツール」の分断。

トヨタ (TTDC) によるAI
Samurai完全子会社化が示す、
知財AI業界の地殻変動。

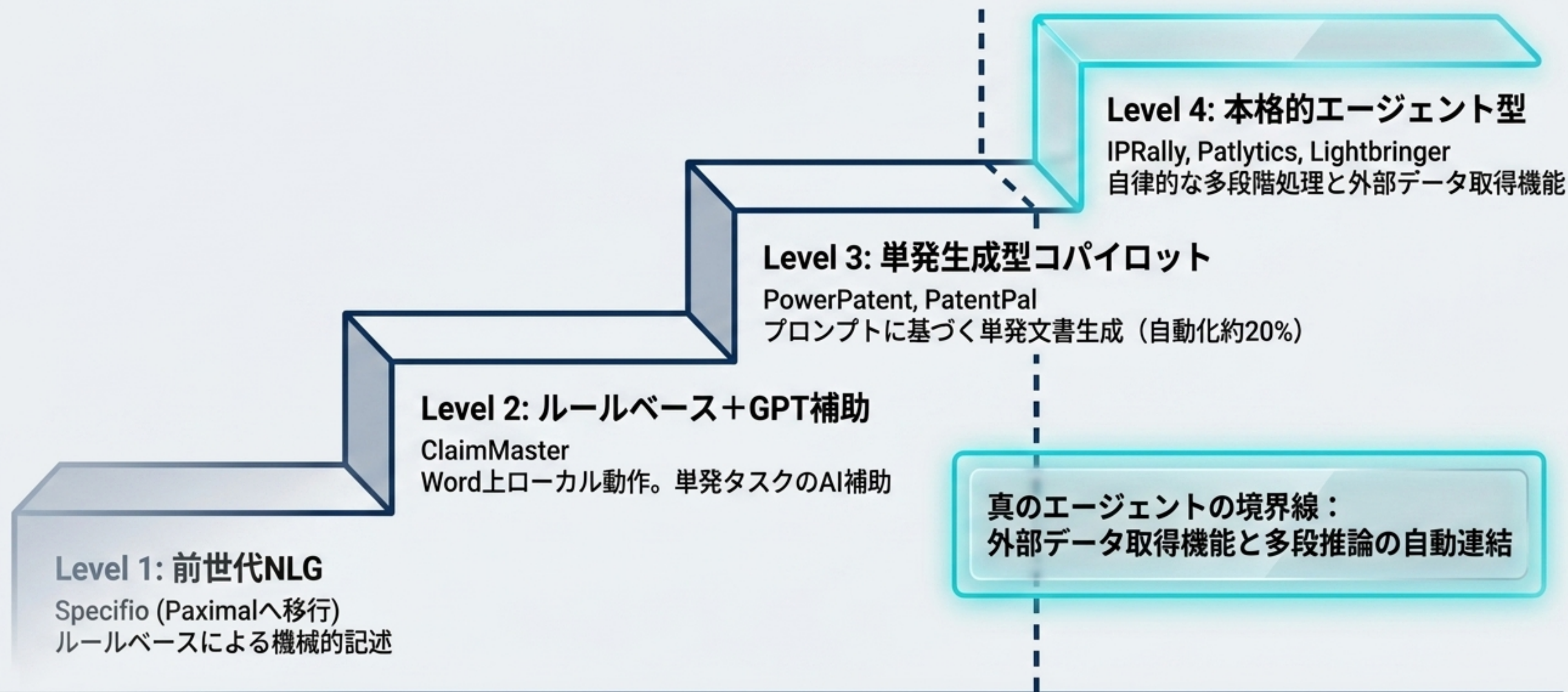
【新たなリスク】 知財AIプラットフォーム^T の特許訴訟



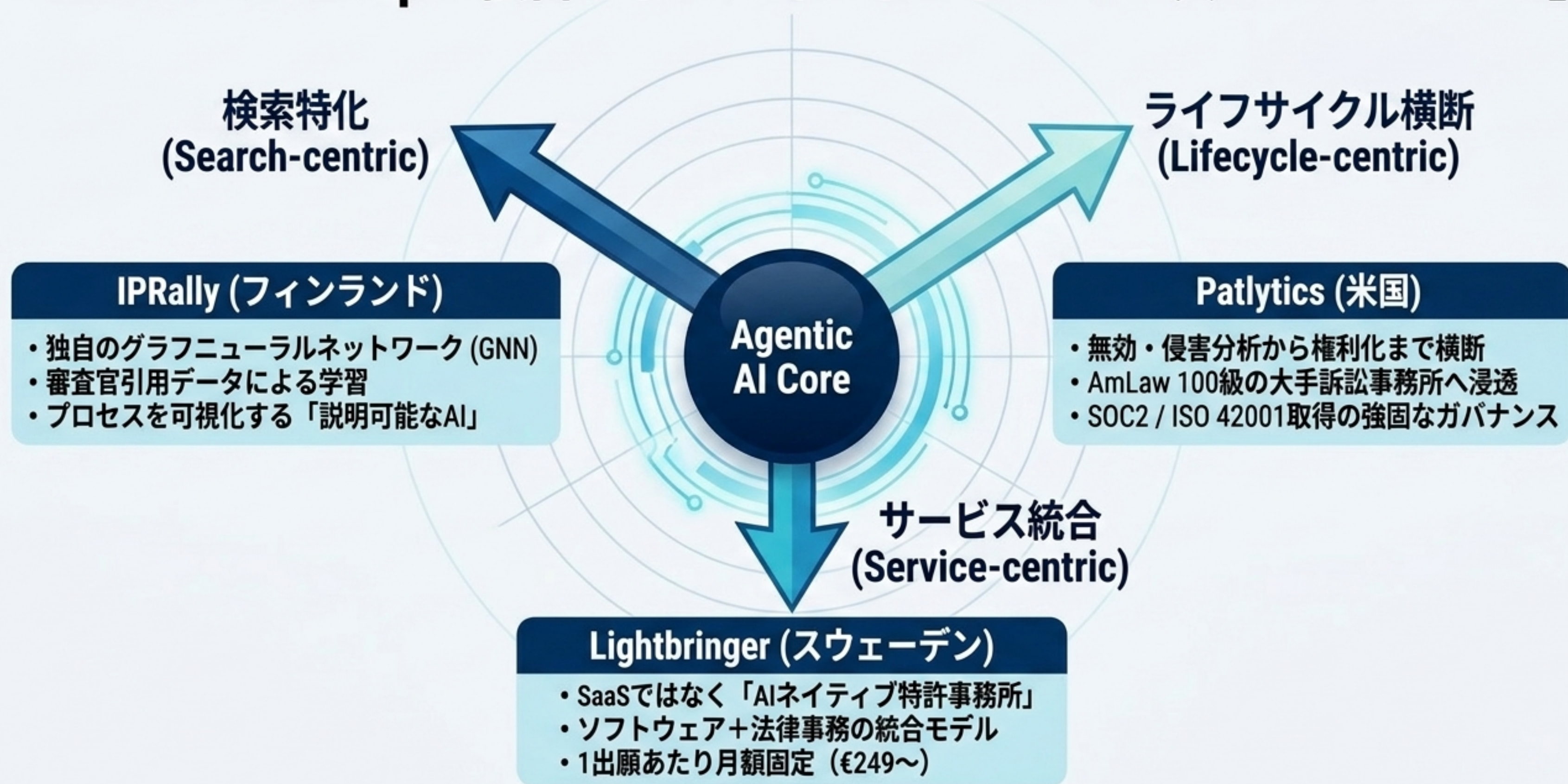
AI知財ツールベンダー同士の特
許侵害訴訟が勃発。

導入企業が直面する、データ
主権とベンダーロックインの新
たなリスク。

The 'Agentic' Spectrum: 「エージェントAI」の厳密な再定義



Western Landscape: 独自のポジションをとる3つの「真のエージェント」



Fact-Check Matrix: マーケティングの前提と事実のギャップ

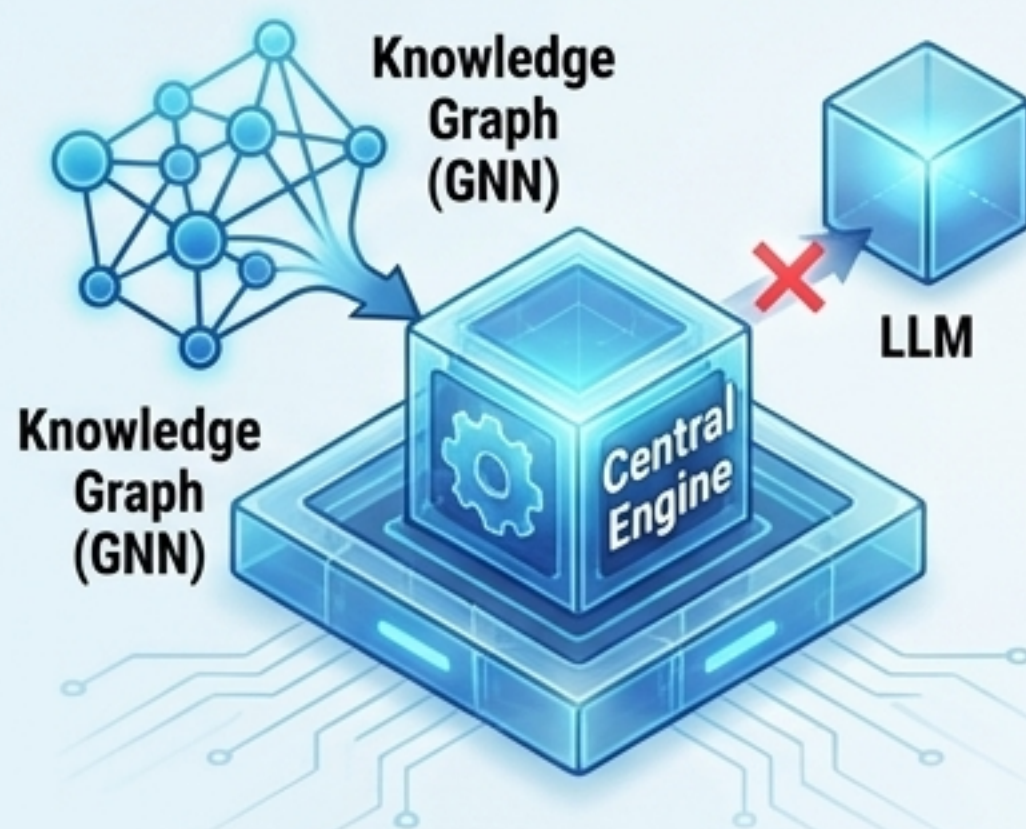
一次情報（USPTO譲渡記録・公式発表）に基づく実態検証

世間の認識（Myth）	一次情報による事実（Fact）
PowerPatentとSpecifioは関連会社である	 完全な別会社。Specifioは2024年1月に単独企業として消滅（資産はPaximalへ譲渡済み）。
ClaimMasterとPatentPalは関連会社である	 完全な別会社。ClaimMasterはローカル完結の校正ツール、PatentPalはクラウド生成ツール。
AI導入により「90%削減」「70%高速化」が実証されている	 すべてのベンダーの自己申告値（自己開示KPI）第三者機関による独立検証は存在せず、自社実測が必須。

Architectural Divergence: 欧米トップツールの異なる技術アプローチ

独自GNN型

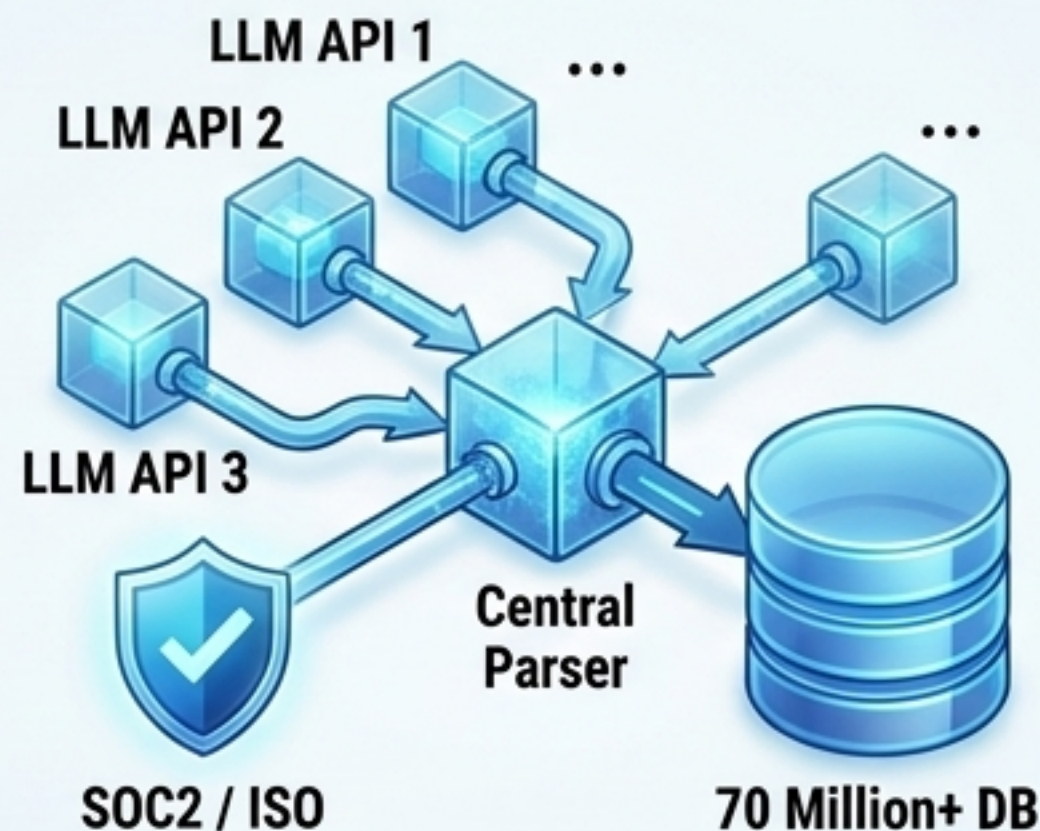
IPRally



- グラフニューラルネットワーク(GNN)が中核
- LLMの幻覚 (ハルシネーション) を構造的に回避
- 「なぜヒットしたか」を説明可能なアーキテクチャ

外部LLMアグリゲーター型

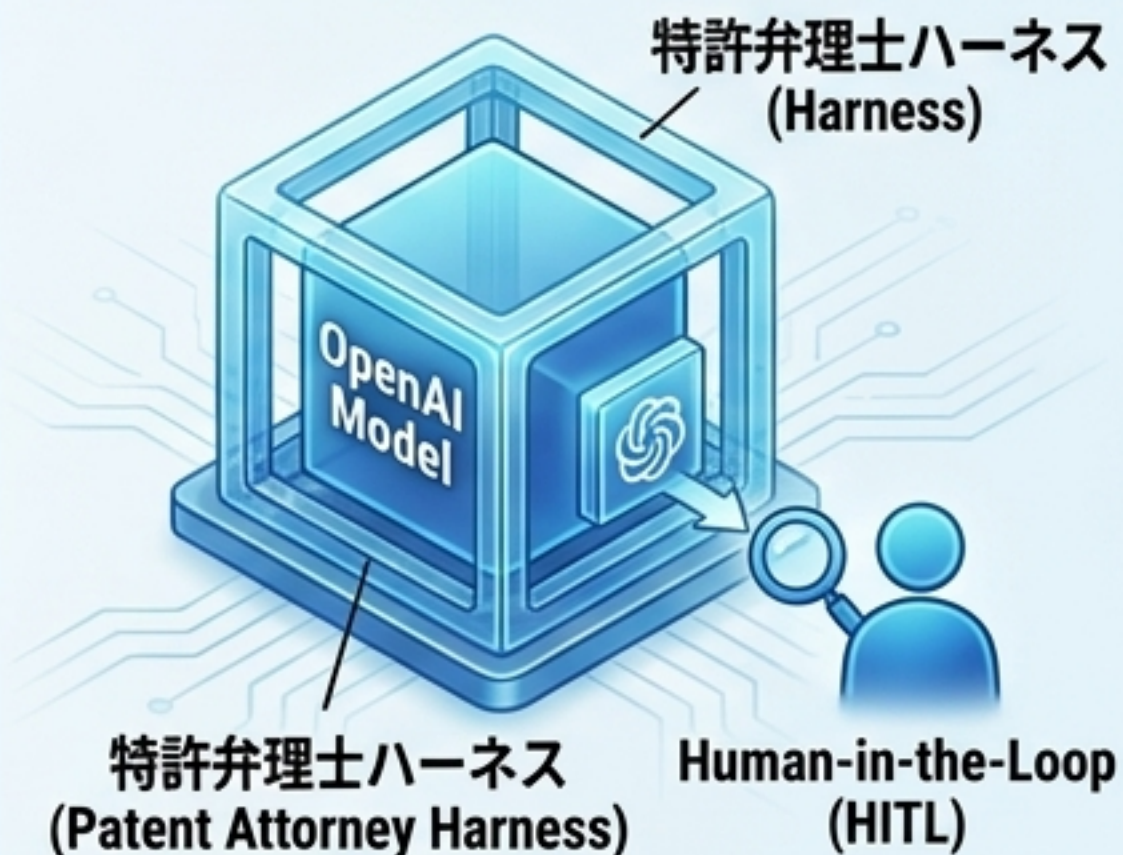
Patlytics



- 複数の外部汎用LLMを基盤に構築
- 要素単位のパースと7,000万件超のDB自動取得
- SOC2 / ISO認証で外部モデル利用のガバナンスを担保

汎用LLM+ハーネス型

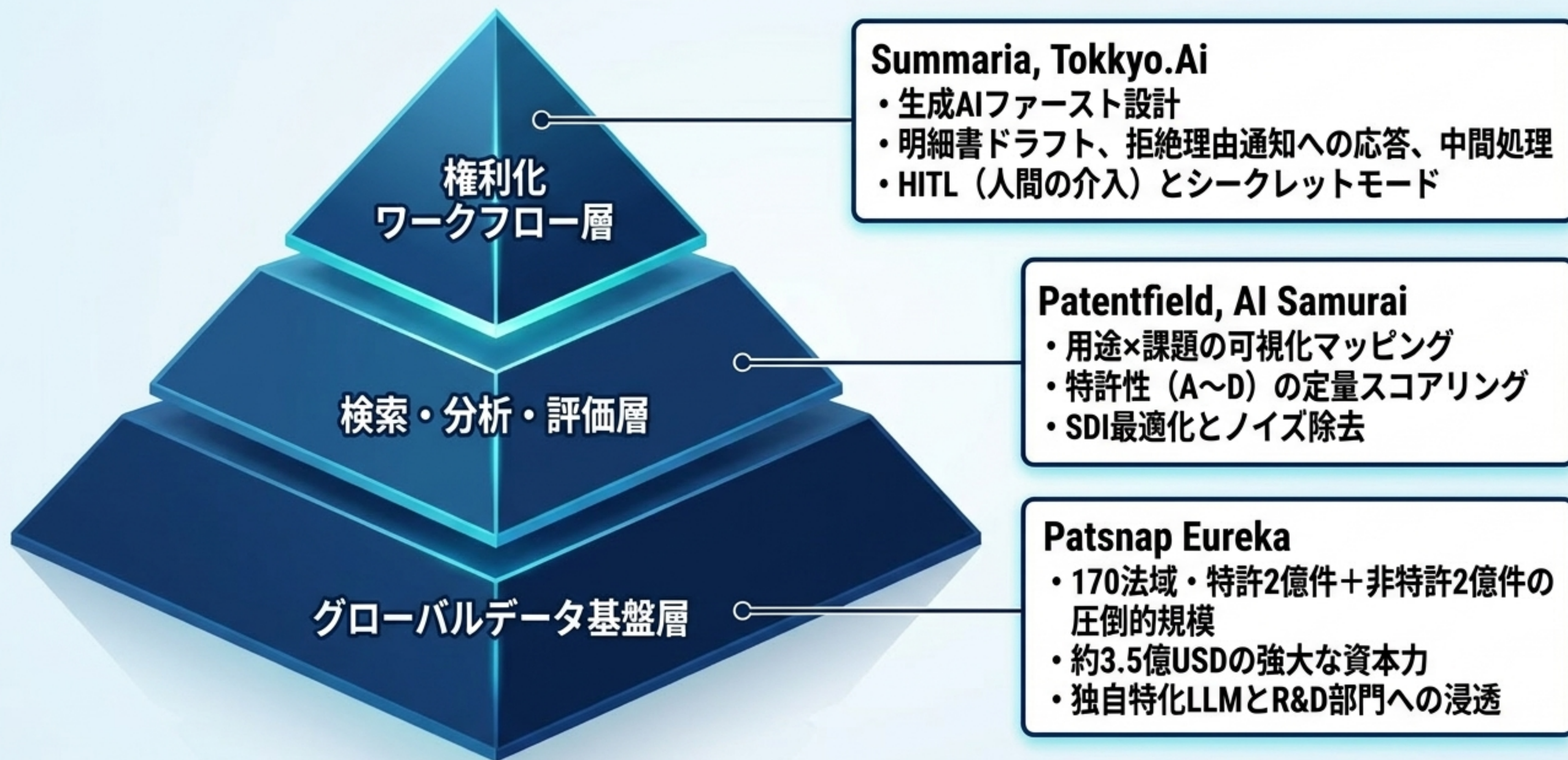
Lightbringer



- OpenAIモデルに「特許弁理士ハーネス」を被せる
- ゼロデータ保持契約による機密保護
- 法的助言への人間の関与 (HITL) を必須化



Japan Market Architecture: 日本市場の3層構造モデル



The Goliath vs. The Local Heroes: 資本力とスコープの対立

Patsnap: 外資系グローバルプラットフォーム

圧倒的なグローバル・プラットフォーム

- ・ 圧倒的な資本力（累計3.5億USD調達）
- ・ 知財部を超え、グローバルR&D部門全体へ直接浸透
- ・ 化学構造・材料（SPUM）など特定技術領域に特化した独自ドメインLLM

AI Samurai: 国内統合とM&Aの衝撃

AI（TTDC）が完全子会社化

- ・ 2025年6月、トヨタテクニカルディベロップメント（TTDC）が完全子会社化
- ・ 独立系スタートアップから、日本最大の製造業グループの
- ・ 安定資本を獲得した一方、競合他社からのデータ預託に対する新たなガバナンス論点が発生



Feature Deep Dive: 国内市場を牽引する2つの思想

Patentfield: 「読む」から「見る」へ



- AIサマリーにより特許全文を「用途×課題」で自動マッピング
- 個別の特許を読む前に、母集団全体の傾向を視覚的に把握
- 価格の完全公開（月額1万円～の透明性）

Summaria: 「生成AIファースト」の実務設計



- 弁理士CEOによる実務直結の権利化ワークフロー
- 拒絶理由通知への応答方針から意見書案までAIが支援
- 承認前反映なし・シークレットモード搭載で守秘義務に適合

The Elephant in the Room: AI知財ツール同士の特許訴訟

PI社 (Summaria) vs PF社 (Patentfield) の全経緯とリスク



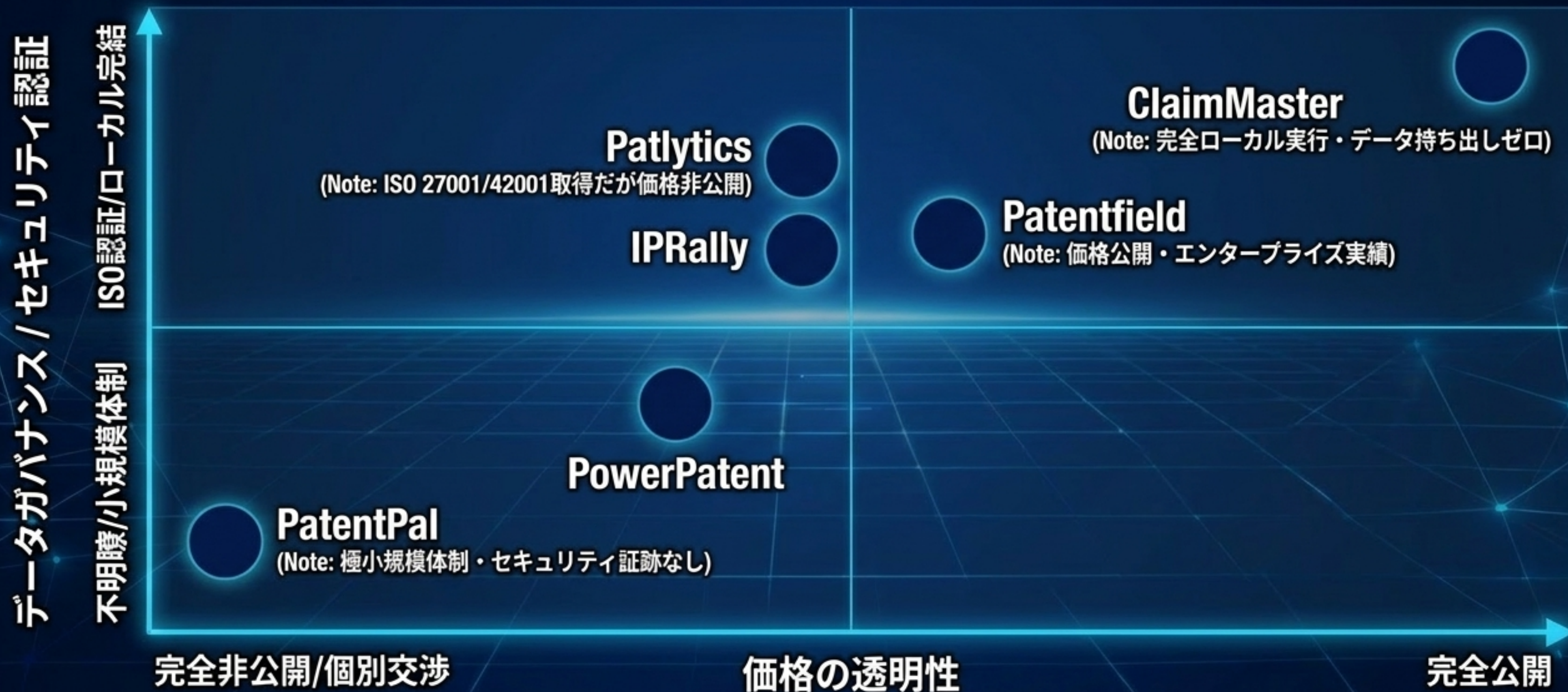
Strategic Takeaway

AI知財ツール自体が特許紛争の火種となる強烈なアイロニー。
判決 (判例) は出ず和解条件は非開示。導入企業は、機能停止リスクに備えた
「知財補償 (IP Indemnification)」条項の確認が不可欠。



Security & Pricing Opacity Radar

ガバナンス要件と価格透明性によるポジション・マッピング



THE MEGA MATRIX: 日米欧プラットフォーム横断比較

企業名	技術アプローチ	主用途	対象ユーザー	ガバナンス/特記事項
IPRally	GNN (審査官引用学習)	新規性調査	大企業知財部	Glass Box (説明可能)
Patlytics	LLM Aggregator	訴訟 / ライフサイクル	大手訴訟事務所	ISO 42001取得
ClaimMaster	ルールベース (ローカル)	明細書・クレーム校正	特許実務家	データ外部送信ゼロ
Patsnap	領域特化型独自LLM	グローバル調査 / R&D	R&D部門 / 知財部	170法域の圧倒的データ
Patentfield	機械学習 + 外部LLM	SDI最適化 / マッピング	企業 / 事務所 (日本)	価格完全公開
Summaria	生成AI + エージェント	明細書作成 / 中間処理	企業 / 事務所 (日本)	シークレットモード 搭載



Synthesis: プラットフォームからプロトコルへ

UIのロックインから、データ連携 (API/MCP) の時代へ

SaaS Platform (UIロックイン)



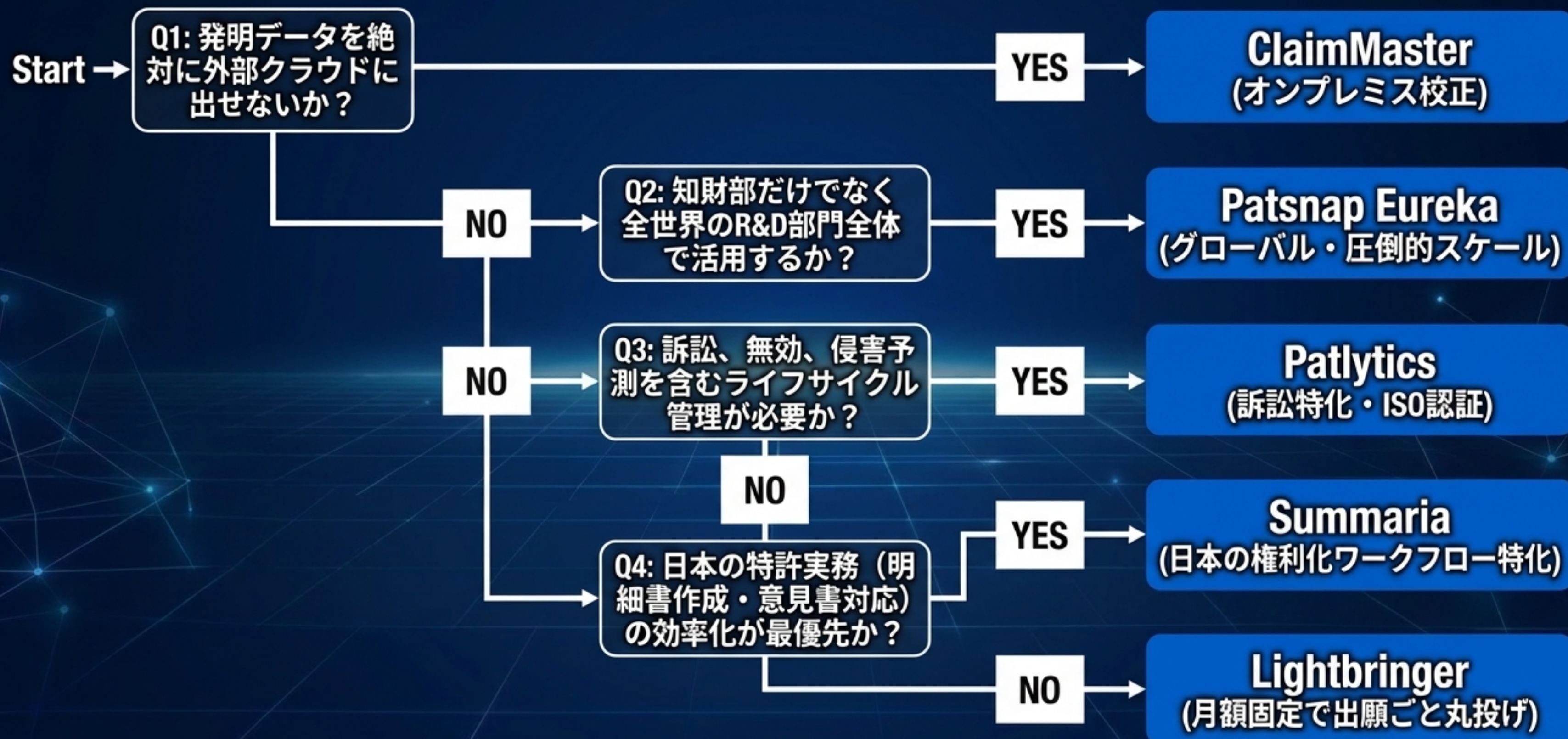
ユーザーは特定のツールの画面内でしか作業できない。

Data Protocol (MCP/API連携)



- AI Samuraiが「IP Samurai MCPサーバー」を提供。
- PatsnapもOpen Platform (API) を展開。
- 手元の汎用AIから直接IPベンダーのデータベースを叩く次世代アーキテクチャ。

Strategic Decision Tree: 自社に最適なツールの選択



Conclusion & Strategic Playbook: 導入検討者への最終提言

AIは弁理士を置き換えない。AIを使いこなす組織が、そうでない組織を置き換える。



Pillar 1

1. KPIの自社検証 (Verify the Hype)

「90%削減」等の自己申告値に依存しない。

契約前に、自社の過去案件（特許性調査・拒絶応答）を用いたPoC（概念実証）による実測評価を必須とする。



Pillar 2

2. ガバナンスと資本の デューデリジェンス

トヨタによるAI Samurai買収が示す通り、資本関係に伴う競合へのデータ預託リスクを精査する。

ベンダー側の事業継続性を見極める。



Pillar 3

3. 知財補償の確保 (Demand Indemnification)

国内訴訟事例が示す教訓。

ツール自体の特許侵害によるサービス停止リスクを回避するため、SLAおよび第三者知財侵害補償条項を契約に組み込む。